

## 野洲市環境基本計画「まち・くらし分野」のプロジェクトの成果と見直し項目

(20120328 近藤)

### \* 「まち・くらし分野」のプロジェクト (PJ)

- ① 一人ひとりが自動車社会を見直す「エコドライブ活動」
- ② バス利用大作戦
- ③ 自動車を利用しなくても、安心安全安価でクリーンな市内移動が楽しめる交通体系整備
- ④ きらりと光る野洲の自然、まち、人応援プロジェクト
- ⑤ ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち
- ⑥ 「環境共育支援ネットやす」の設立と運営
- ⑦ 事業所環境保全取り組み向上プロジェクト
- ⑧ 三上山をはじめとする、野洲ならではの景観を守り育てよう

### 1. 「成果と見直し項目」の検討方法

自然分野に同じ

### 2. PJの成果と見直し項目

#### (1) 成果

全体として、8PJの中でも①エコドライブおよび⑤ごみを出さない売り方・買い方が広がるまちについては、実直に活動が進んでおり、実績もあげられていると評価できますが、その他PJはほとんど進んでいないように思えます。これらのプロジェクト化していない分野についてどう考えるかが見直しの重要なポイントでしょう。

各PJの主な成果は、以下の通りである。

- ①一人ひとりが自動車社会を見直す「エコドライブ活動」
  - \*エコドライブ講習会の開催（毎年開催／延べ154人参加）
  - \*フォローセミナーも開催
- ②バス利用大作戦
- ③自動車を利用しなくても、安心安全安価でクリーンな市内移動が楽しめる交通体系整備
- ④きらりと光る野洲の自然、まち、人応援プロジェクト
- ⑤ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち
  - \*買い物フォーラムやごみ減量出前講座の開催（延べ2,025人参加）
  - \*店舗におけるキャンペーンの開催
  - \*出前講座としての工夫開発…人形劇やダンス・ソングの開発実施
  - \*各学区で実施

- ⑥「環境共育支援ネットやす」の設立と運営
- ⑦事業所環境保全取り組み向上プロジェクト
- ⑧三上山をはじめとする、野洲ならではの景観を守り育てよう

## (2) 見直し項目

### 1) 全体その1

稼働していないPJを今後どうするか。8つのPJのうち実質2つのPJしか活動していないのは問題であろう。例えば、交通であれば交通の担当課（生活安全課）との連携、また環境学習であれば学校教育課、生涯学習課などとの連携を具体的に考えることが第一ではないか。

また、PJ作成時とはメンバーも状況も変更されているので、新たなPJを生み出すような場やインセンティブが求められている。さらに言えば、既存のPJとの棲み分けや協働を明確にすることもキーになるかもしれない。

PJの④⑥⑦はまちくらしというよりは、全体にかかわる中間支援的な位置づけでもあるので、区分も含めて再位置づけすることが必要ではないか。つまり、PJを毎年生み出したり、刺激するような支援PJも必要であろう。

### 2) 全体その2

せっかく各PJに評価基準が設定されているので、その評価基準をあるものから収集して年度ごとに確認する事はできないだろうか。公共交通の利用者数などはすぐに入手できるもので、そこから現状を見すえることも必要である。その上で、難しい評価基準は削除してわかりやすい評価基準に差し替えていく作業も必要。PJの運営者数といったことは各PJを横断的に比較できる参考データにもなるし、市民アンケートなどにおける認知度評価なども利用できるかもしれない。

### 3) PJごとの主な見直し項目

(PJ振り返り(付箋)および付箋が無いものは考察に基づく)

#### ①一人ひとりが自動車社会を見直す「エコドライブ活動」

- \* 推進体制の確立
- \* 連携体制…教習所や免許更新時、販売店などとの連携
- \* エコドライブからエコ通勤・グリーンムーブなどへの拡張
- \* 実績データの収集と啓発
- \* 野洲ならではの移動のあり方を共有化

#### ②バス利用大作戦

- \* 移動困難者の把握

- \*市内自動車保有データなども含めた交通状況の把握と共有化
- \*事業所借り上げバスなどとの連携の模索

③自動車を利用しなくても、安心安全安価でクリーンな市内移動が楽しめる交通体系整備

- \*地区別交通カルテの作成
- \*イベントやPRといったモビリティマネジメントの実施
- \*事業者と利用者などによる公共交通活性化協議会などとの連携
- \*自転車利用政策の推進

④きらりと光る野洲の自然、まち、人応援プロジェクト

- \*コンセプト素晴らしいので是非推進を
- \*推進体制および評価をどのようにするか

⑤ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち

- \*担当組織もしっかりしているし、目標値や展開への希望意欲もあるので、問題ありませんし、是非楽しく目標に向かって進めていって欲しいです。
- \*勢いがあるうちに、モデル地区や目標を詳細に決めてひとつひとつやり遂げる（小さな成功を積み上げる）ことが大事かもしれません。疲れる前に。
- \*成果を”見える化”することも振り返りと今後の刺激のために良いかもしれません。

⑥「環境共育支援ネットやす」の設立と運営

- \*堅く重い組織は大変なので、いかに軽く楽しい場とするか
- \*自治会や子ども会、PTAといった既存の組織等との連携ができないか
- \*どの程度のニーズがあるかという調査把握を

⑦事業所環境保全取り組み向上プロジェクト

- \*ISOやEMSなどとの連動を
- \*滋賀GPNなどとの連携を。
- \*必要性と意義を明確にする…例えば事業所と市民との架け橋を目指すのか等

⑧三上山をはじめとする、野洲ならではの景観を守り育てよう

- \*景観として自然部会ではなくてここで良いか
- \*自然部会へ移動統合してもよいのではないか。

#### 4) その他

プロジェクトという勢いが出るかたちと、日常の地道な活動といったかたちとを区別した方が良くはないでしょうか。市民や事業者のほとんどが取り組んで欲しい野洲のエコマナー的な動きをどのように広めていくかという戦略は、いかに既存組織の年度計画に埋め込んでいくか、あるいは全体的な啓発 PR という中でとらえていくものです。一方、プロジェクトとして考えると、むしろ毎年コンペ・プレゼンテーションといったプロセスをとることで、勢いと鮮度を保ち、ある意味で競争するようなアイデア的なうごきを生み出していても良いのではないのでしょうか。

以上